

総合研究院
アグリ・バイオ工学研究部門
公開セミナーのお知らせ

(1) 日時 6月20日(月曜日) 16:00:~17:00

(2) 場所 講義棟 505 教室

(3) セミナーの内容について

遺伝子導入技術や siRNA による発現抑制技術、さらに近年のゲノム編集技術などの進歩により、遺伝子の本体であるタンパク質の機能解析が飛躍的に進んできた。しかし、DNA や RNA の導入が難しい細胞が存在することや、ゲノムレベルでの変異ではなく、ある一定の時間のみタンパク質の影響を解析する必要があるなど、解析対象がより複雑となってきた。そのため分子生物学的手法に有機化学的手法を組み合わせたケミカルバイオロジーの重要性が高まってきた。タンパク質の機能を制御できる有機化合物を開発することができれば、タンパク質の解析ツールとして用いることが可能となる。また近年、東京大学を中心に数十万種規模のケミカルライブラリーの整備が進み、アカデミアでそのような化合物ツールを開発できる環境が整いつつある。そこで本セミナーでは、我々が進める哺乳類の免疫応答や植物ホルモン応答を制御する薬剤開発を例に、コムギ無細胞技術を用いてケミカルライブラリーの中から、目的のタンパク質の機能を制御できる低分子有機化合物を探索する技術を紹介します。

招待講演

時間：16:00~17:00

演題：「医学・農学ケミカルバイオロジーに向けたコムギ無細胞
基盤薬剤開発」

講師：澤崎達也 教授(愛媛大学プロテオサイエンスセンター)

場所：講義棟 505 教室

世話人 基礎工学研究科
 生物学専攻
 有村 源一郎